

インド下院による原爆犠牲者への追悼
(平松大使、小泉進次郎議員ほか4名の衆議院議員等の参加)

1. 本6日(現地時間同日)午前、インド連邦下院議会において、広島及び長崎の原爆犠牲者を追悼する黙禱が行われました。平松賢司駐インド大使をはじめとする当地在留邦人代表は、当地訪問中の5名の衆議院議員(小泉進次郎議員、村井英樹議員、鈴木憲和議員、小倉将信議員、小林史明議員)と共に議会を訪問し、インド下院議員と共に追悼及び黙禱を行いました。
2. インド連邦議会は、1985年から30年以上に亘り、ほぼ毎年この時期に原爆犠牲者追悼のための黙禱を行っています。戦後73年を経た今日もこうした慣行が続けられていることは、大変ありがたいことであり、本会議開会前にマハジャン下院議長を表敬した際に、平松大使から深甚なる謝意を伝えました。
3. また、議員団を代表して小泉議員からマハジャン議長に対し、このような原爆被害者に対する追悼を今なお毎年行っているのは世界中でおそらくインド議会だけであり、心から感謝する、今回、広島選出の小林議員が行事に参加したのは、日印関係の新たな1ページを開くものではないかと思う旨述べられました。
4. 黙禱に先立ち、マハジャン下院議長は議場において、原爆犠牲者を追悼して、概要以下の発言を行いました(発言はヒンディー語、英語の同時通訳)。

(1)73年前の1945年8月6日と9日に、広島と長崎は、原子力爆弾の被害に見舞われ、想像を絶する破壊を被った。同爆弾により、極めて多くの死傷者が発生し、また、多くの人が生涯に亘って後遺症に苦しめられることとなった。

(2)73年が経過した現在でも、広島と長崎の人々は、核放射線による被害に苦しんでいる。インドはいかなる時も非暴力・平和を強く信じ、尽力してきた。そして、インドは世界の平和・安定性を維持するために主要な役割を果たしてきた。

(3)今こそ、このような大量破壊兵器を撲滅させることを決意し、世界平和と兄弟愛を広めよう。原爆犠牲者を偲んで、下院は起立し黙禱を捧げる。

